

はしかにならない、 はしかにさせない 麻疹排除計画



予防接種を受けましょう

麻疹（はしか）は、麻疹ウイルスによって引き起こされる、一般に小児期に多い急性の感染症として知られています。しかし、最近では、10代、20代での感染が多く見られ、社会的にも関心を集めています。平成19年8月、厚生労働省が「麻疹排除計画」を策定しました。これを機に、麻疹排除に向けて一人ひとりが取り組みましょう。

麻疹（はしか）とは どんな病気？

麻疹は、麻疹ウイルスの空気感染、飛沫感染、接触感染によって発症します。その感染力は非常に強く、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

感染後、約10日で、発熱やせき、鼻水といった風邪のような症状が現れます（カタル期）。2～3日間熱が続いた後、39以上の高熱と発疹が出現します。肺炎や中耳炎を合併しやすく、1000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。発病した人が周囲に感染させる期間は、発疹出現の3～5日前から発疹出現後4～5日目くらいまでで、感染力が最も強いのは発疹出現前のカタル期です。

最近の麻疹の 流行状況は？

大規模な流行は平成13年に発生しましたが、その後、患者の報告数は年々減少し、平成18年には過去最少となりました。しかし、平成19年に再度報告数が増加し、特に15歳以上の患者の割合が増加しました。平成20年は、全国で1万人以上の患者の報告があり、多かつた年齢は0～1歳と、15～16歳をピークとする10～20代でした。また、平成20年に報告された麻疹による脳炎は全国で9例あり、全て10歳以上でした。

なぜ、近年、10・20代を中心に流行するの？

10代から20代の人たちの中には、1度も予防接種を受けていない人がいます。その上、1度の予防接種では、十

麻疹風しん混合予防接種 中学1年生と高校3年生も接種対象に

平成20年度から、中学1年生と高校3年生に相当する年齢の人に対し、麻疹風しん混合予防接種を実施しています。対象者には、4月にお知らせを送付しました。乳幼児期に麻疹、風しん単独の予防接種を受けた人も、追加で2回目を受けることになります。接種が済んでいない人は、早めに受けましょう。

対象 市内に住民登録のある中学1年生に相当（平成8年4月2日～平成9年4月1日生まれ）する人および高校3年生に相当（平成3年4月2日～平成4年4月1日生まれ）する人。

接種期間 平成22年3月31日まで。

方法・回数 医療機関での1回接種。

費用 対象年齢内で接種期間内に接種する場合は無料。ただし、接種期間を過ぎると有料。

持ち物 母子健康手帳、市から送付したお知らせ（封書）一式。

接種の際は、予防接種の種類を十分確認してください。

麻疹はどうやって 予防するの？

麻疹の唯一の予防方法は予防接種です。予防接種1回で95%以上の人が免疫を獲得することができます。

平成20年に全国から報告された患者の接種歴は、1度も接種したことがない人が45%と最も多く、1回接種した人が27%、2回接種した人が1%、接種歴が分からない人が28%でした。

予防接種をきちんと受け、麻疹を予防しましょう。

分な免疫が獲得できない人が数%いることが知られています。近年は、そのような人たちの中で麻疹が流行していると考えられています。さらに、麻疹ワクチンの接種率の上昇に伴って、麻疹の患者数が減り、麻疹ウイルスにさらされる機会が減少しました。そのため、幼少期にワクチンを接種した現在の10代から20代の人には、免疫が強化されず、時間の経過とともに免疫が弱まってきていることも原因の1つと考えられています。